

降終了一三時五五分。

(記)

「タイム」 下降点(一一:〇五)↓沢

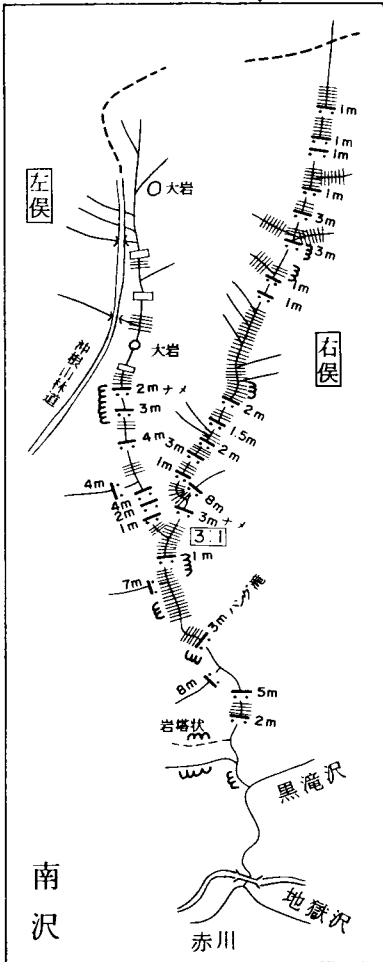
南沢右俣

一九二二年八月二三日

南沢左俣の遡行を終了後、小尾根二つを越えて一〇時四五分、右俣の下降を開始する。ここまでするのに、まさか道があるとは思わなかったから、下降点を求めてどんどん下っていたら、すっかりした踏跡に出た。これなら左俣源頭の伐採地のあたりでよく探すんだと思ったが、いたしかたない。

五分も下ると急傾斜のナメとなる。ナメというのは登る

時にはたいした障害とならないが、下降する時にはなかなかやつかない



(一一:二〇)↓南沢出合(一一:三五)↓地獄沢出合(一一:三五)

しろものである。所々ブッシュにかまったり、慎重にクライミングダウンしたりしながら進む。
二〇分程下つてようやく傾斜がゆるやかとなり、歩きやすくなった。ナメは、小滝をまじえながら、左俣との出合までずっと続いていた。左俣出合到着一二時ジャスト。

(記)

「タイム」 下降開始(一〇:四五)↓

左俣出合(一二:〇〇)↓下降終

了(一二:三〇)

南沢左俣

一九八二年八月一三日

地獄沢および黒滝沢の様子から、この南沢もたいしたことはなからうと思い、今日は少し息抜きしようとしてここを選んだ。

南沢に入るとまもなく、沢は明るい樹林帯を離れて、林の中を流れるようになる。五びの滝が出てきた。右岸を直登する。ホールドが豊富なので、いろんなルートがとれそう。少し進むと、今度は三びのハング滝。滝の右端にルートを求め、流木を利用して越える。この先はナメと変わった。黒滝沢や地獄沢とはかなり様相が異なるようだ。

九時三〇分、右俣出合。左俣に進む。小滝が連なっており、劇的な面白さはないが、退屈することもない。やがて、フトン籠に石を詰めたものを積み重ねただけの、簡単な砂防

赤川左支流

一九八五年一月二六日

山々の木々の葉もこの時期になると色あでやかになり、反面水の冷たさは身にこたえてくる。本日の調査をもって一九八五年の福島登高会の

ダムが出てくる。右岸を見ると、林道が見える。どうも営林署が盛んに伐採を進めている地域のようだ。大岩を越えたあたりでは、もう沖根山林道がすぐそばを走っていた。一〇時ちょうどに沢から上がる。

(記一) ㄨ

〔タイム〕 遊行開始(八:三五)↓黒

滝沢出合(八:四五)↓右俣出合

(九:三〇)↓沢終了(一〇:〇〇)

沢登りは終了である。

赤川左支流は、赤川滝が起点となる。市道より滝まで道がついており、手前には神社がある。